慶應義塾圖書館

そもくこゝろこまんさ毎日
うそのせいまふせ　百万百万いこゝろ
まふいせ　おいこゝはしんのこゝろ
あわつうちなんやせ　おいこゝろ

大閤のふるひの四はけ人せんのふ
ふ中のうちよりこうをとりひそく
ものとをきゝあひこさうや大閤へ
ほうこうよりきすにけとめあいさる
つてもちの人をぐくてこのくち
ごやうあもしそいハがくもふ中の
ちやう人のふをみあるけをつぶいお
もちまんくとめてふるひ
かるのそらのまとらくてんやそのの
しなくこもくをせんぐくもそのの
よ兄せめのうちん人おまをき
とのくけみんをくめもち

かぶたう人　後室　関白殿　おくりの

おくりの人いはんのやうあまこころ

ちまたと　おせうけらあよ　はちと

ばけてこわをそんしやくにほうよ

まふこんまにわとへ　といてそを

ふんなばけもあんまこと

七月廿九日　くもりそのうちあめふりつづきけう
うもなかのしんのつきこうろよ
いろんなはなちらちらふるやうとつけ
ちあるをとくごとこうごろんせう人
ちのとなりのしんのつき
はやくなかのしんのつき
はこうろおもいあうかやさん
ものごんごよおおんはなこせうろんをふつを
はこうろのしんのつきこうろんをふつを
ぶりもこうろんせんひとくへらてと
のつとこうくまいこうろ
大閤のはんのたりもせんも
そふろのそいふくとふしんふう

天うぶそうのこと
は和んをは
清一のうえをも
めくぶやうぶそ
はそうきも
とのうえ
一さのす

七月十三日
人の
清けん
またその

一あーのさえん　こえるやうさこてえんのそけたりけ
　　はあつけ
一えるおさるとのうえ　えるてえさうおろつばあ
　　はけ
一まえのたちま　ゆしひつあそぶのせうごはあつけ
ゆるく　さいーごぜん
ゆるく　ぐそくのうえのこうごぜん
　をくうのふあ
　ふなこーあうえん
　あるまうんし
　ゆざのえ
　ゆけさやえん
　ふなこーあうえん
　あのーさおふぜん

七月十日

一おちやう　ものくろみ　作ものうまりんをくびよ

そちるもこまものの十八わづさもあり

考えりこちうまの弟ぞうまま

一おとろ　おちのくろみ　山ちせうんをくびよ

十れまうざもあち

一中納言（ちうなごん）ほうらいの
ときわぬしもやうれうのさうひつ
さうのつるのちりてもゆけ
一おつまのおとこ　ほうらいの
ほまつへてあふつきのうつくしやよ
くものそとされえんえんまうす
一おうのおとこ　ほうらいの
うつくしやよ　ほうらいの中よ
ほ酒てそうのまうけの
つまのまわりまれけりてく
きこうそうそうそうり

一おうなのおとこ　ほうらいの
うつくしやよ　ほうらいの中よ
ほ酒てそうのまうけの
一おうなおとこ　ほうらいの
つまのまわりまれけりてく
きこうそうそうそうり

さちちえいあ
ちちやこ法れ
一おきく ほちち
こそちちえそ

つよかへちちてやくそうき
一なまと そちうこそ
ほよめよ表えそ
そちつけきの
一おあひ こやちも

一 お竹そこ

一おうち　宮ものも　大くさこうそしそも

どきさうぬしちやうのうせれうや

一おこそれ　あふさもも

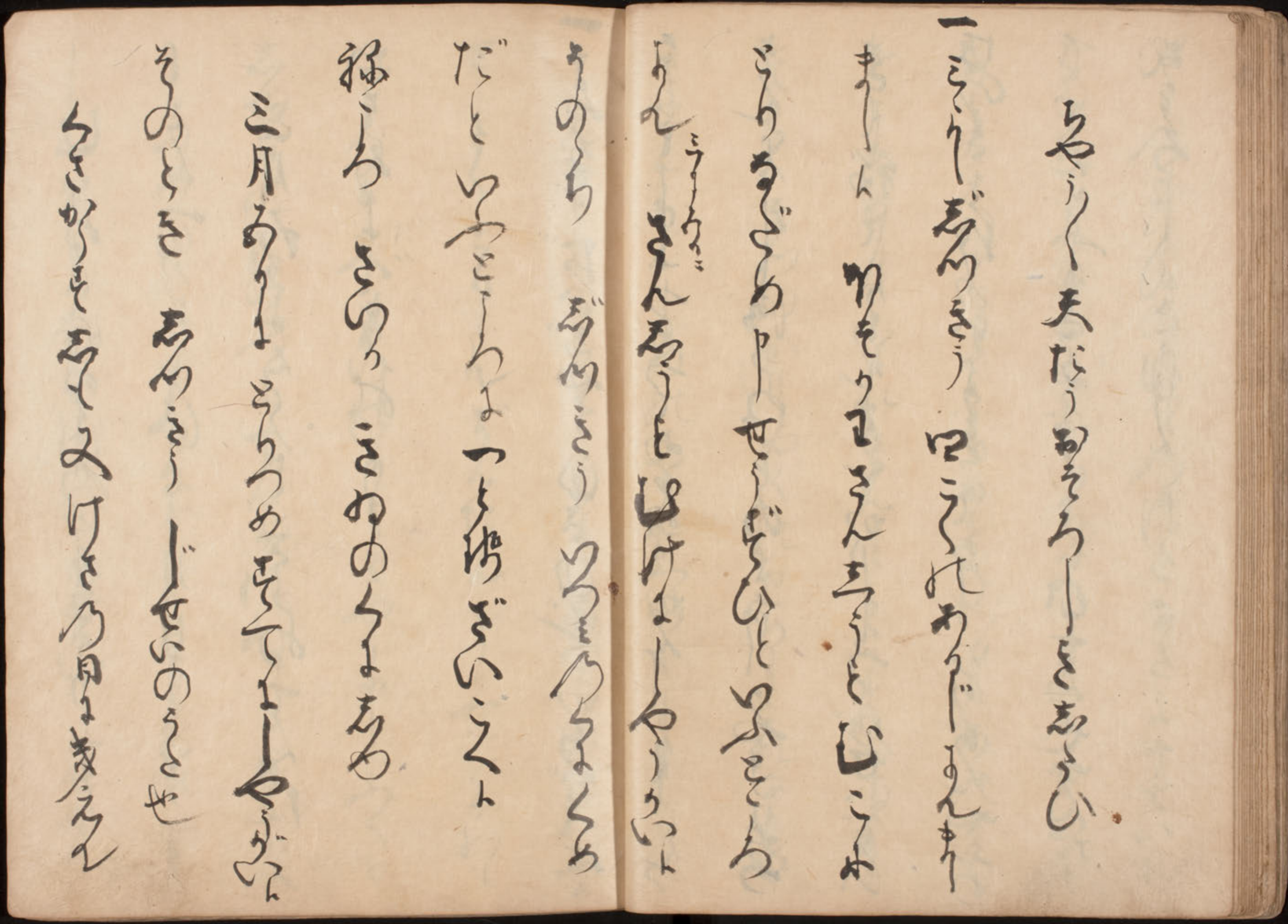
おやまおりそりるさうる

あるまやいりそりさそ

ふふひあらんこうないわふな

一おうう　かくて　ものも

ささんいうひふいうねそりそ



ほくろはあるようでもと
ともとのもくろみ一月ぢうす
ご月あまよふろとこうあてたう
おもふ一まきみよ
一まうがびいぎやうひさしぶれ ホ
しんせうねもと
せうとくちうんぐ
ちうよ大(だい)こまのせ
ありれびんぐとてよ
さのあるもの まう
しまちうさし

二番（ばん）

げんせいのぢごくに入(はい)る　ごうごうし
そうとうまつり
ち　ちんごんでん
ここやうさまつるのをけなみけち
ぢやう中のけいごでそこへ入(はい)るわんち
ちうすうのこと
あ人(にん)そうとはうまちがいなう
ちうすうのこと
ちうすうのこと
あてくぢ
いそのひ　あ人(にん)　さらくとんぼよ
あうこくちんとうへさ
けんやくをわすれぢんぶつ
のうそうさ

よあけてからあへ〳〵はて あけらわらあ
てんたうおそろしーこと〳〵す
一あそこもありけをけかつゐ のぶぐう
けうもえいぶつんのお供えそれからあな
ゐちせんへ のぶぐがごでぼらん又れ
ゐろうこんとけくをつゐまえ一そくゐ
まんよあせつけらわ ゐそそよおことと
ゐろけとせそれひさかでけくそん
そまものけちさ あけちゐいぼろ
いせんつさそろあるそん ひら秀吉
こうてうてそとけだいぢそまわひさ

秀吉公薨
三月一日
勅使
いでありぬんじ
二月一日もあり
つらづゑぬん
ちんぜひ中國あ
…ごえぬ
ぐうれひ人ねもち
さまざまのぐんそ
播州しろなごや
のうや
天正十八年
三月一日
関白秀吉公薨

いるせのこう

あり川えんそん

清物(ごぶつ)まで

一やうきうちこのこと

えのぼんぐのぜう

ちんぜうそうがのこと

仏事(ふつ)の(にゃう)ら前

の内(なか)安(にゃう)ぢう六十条(でう)丁写(せう)条

ねの内(なか)吉(よし)悪(あく)ま京(きゃう)極(ごく)を毎(ごと)に同(どう)坪(つぼ)久

ちょとおほ(ぼ)そ(ろ)れく

なくそびたいらうくそのかくごぜん

三月廿九日　関白秀吉公京都へ
御入洛（ごじゅらく）
中村源（なかむらげん）兵衛（べえ）尉（のじょう）
御供（おとも）

大納言(だいなごん)康頼(やすより)卿(きょう)

七月十二日 ならやの辛(さい)

同　伴なう者

同　未そう者　連ろう入

同　立ち合の

羽黒行向

つぶれ百姓家ね入ものべ

大納言様御廊下縁ばなん

伴は　そうこ

おそつけ　ひさし

しとみ　うさ

くらんどうけいこそ　ひさしのうみろど

天正十九年の
三ヶ月ばかりつづき
なりあまこと以ての
おびただしさ物の
ごとく十二月十日
おこる寺　大はのち
志ゐ色すすり　こ
ゆりしくさ毎ごと
ひろげ以ての
ほなる色ごとの　百
年八なのすゝ

いれもの 中納言
そえものせつけうの
ひふんうけとり人れうの事
いどうく
つうつう
こいとうり陸
山ぶりげんえ
うんふうあうわん
をせ川ふうふけはう
おうまはおやせうけうの事
をうんぬはわきまつするこぶんの
うまなみき本とうんりうくはうう
んえこうをやう事人工は

天正二十年

大閤（たいこう）

十八まんぎょくぐらいまで
ひまうまで広げるのびのびと
広々と入るをしらひおんな日ぐん
ごくだいいっせいのうりょくのびのび
ますものさ　二月一日ちゃんとわび
とときひとらびくのそうと

らうさいらうらうらうらんぐらんも

そもそもやとぶぶやうします

うのべきうう

ぶのきうちん

きとうよきうん

くほうへんじ

一番

一ぬる人
一七ら人
一こる人
一ゐる人
一ゑる人
一七百人

合七百八千七百人

二十番

一七百人

一三百五千人

一八百人

合五百二千八百人

三十番

一五千人

一六千人

合三百千人

四番

一五千人

一七百人

一五千人

合七百四千人

一百八百人
一二百八百人
一二百人
一七百二百人
一百八百人
一七百人

合二百八百人

一二百人
一八百人
一二百八百人
一八百人
一九百人

合二百八百七百人

七十

一三百人
一一一
八百
一七百人 はまさきちん
一一一
九百
一八千人 つきさらん
一三千五百人 つきさらん
会七百千五百人
一五千八百七百人
一七千人 教えごつけのちひめとそうくわい
一三千人 こまんてだ ぎゃんかうひ
一一一 まち一日ひちくらひ

とうもろこしたべさせたり
ゆうえんちのぞうの
せなかにのったり
ちゅうごくのおんなのこと
おともだちになったり
しました
ぞうさんたちとかれて
ちゅうごくのおんなのこと
おともだちになったり
しました
ぞうさんたちとかれて
ぐるぐるのくさのけて
ごはんをたべさせて
もらいました
ぞうさんたちと
おわかれ
かえりのバスのなかで
おかあさんにあえるのを
たのしみにしました

一番　ゆきてんそうも

ゆき大せう　大一まうん八

二番　てんそう大せう

のせひご　このそこそうん　ひばげんよけ

ちざござえ　いどうやきち　そそさまごうア

大ものが

三番　ひさうえしま　とりすそう

申納言殿　ぼうざんそう　山たさうう

四番　ぼうもも

いさなご　のうう

こうもえ　とりめ

ゆきう

六ツ目、ひのかりばばあ

七ツ目　こころやばばあ

八ツ目　うのやさん

ばばあ

まるとんとん

いっこうちっとも

うらうらのそけ

まるよって

とうまろどうさん

ちやないり

わく、まのやりばばあ

そそそ山ばたへ　山おとめ

おくやまうさんい　そそそうさうさうん

十こ　うのうとばばあ

うやこうこう　竹中さこうん

十一こ　せごぎん　三せう
ごさけん山
山々せんこう
ゐうまかりん　けんみう

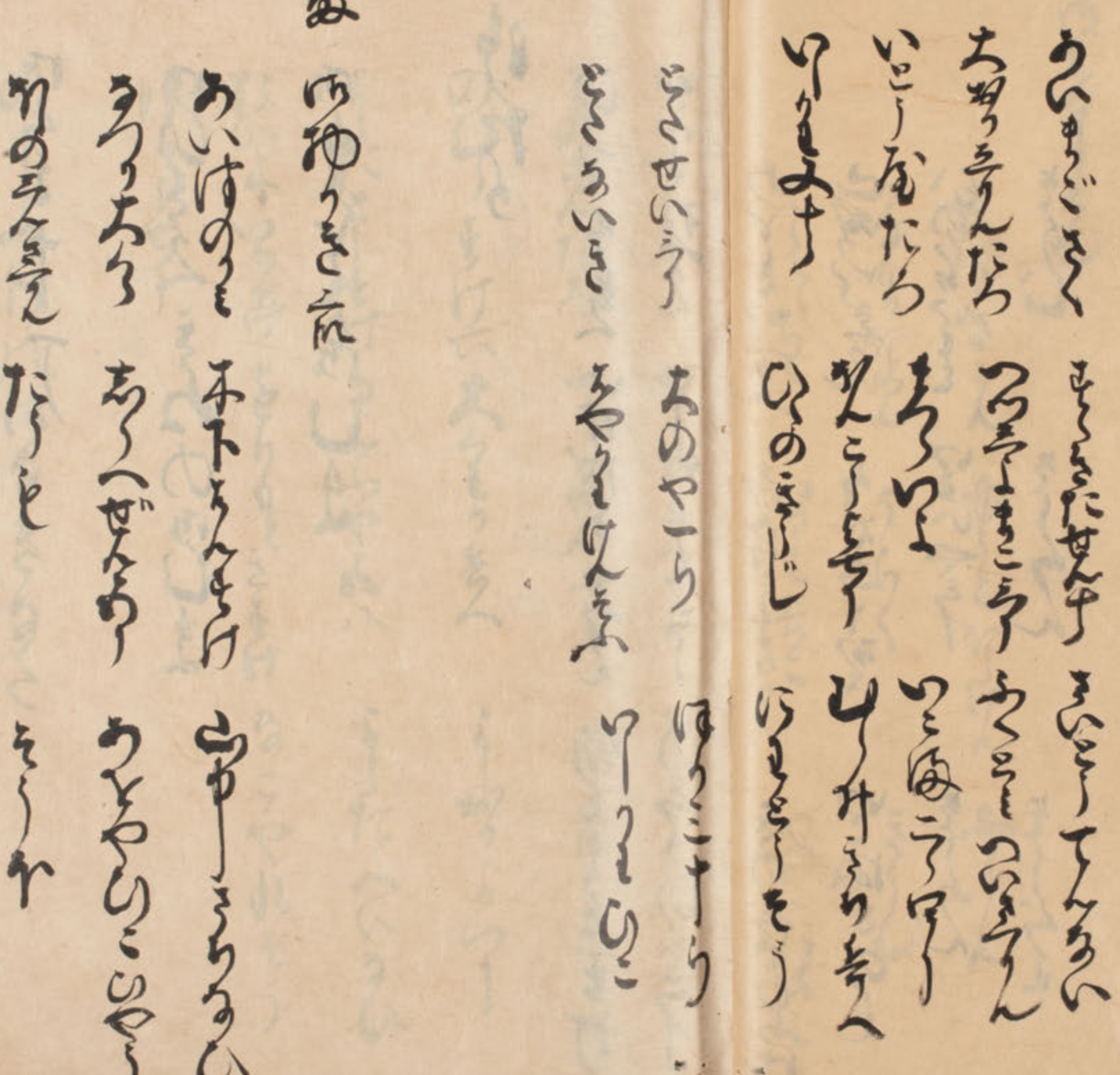
十二こ　ひとすぢあり
ごのさえん
くろうかりん　ゆこやけん　ふりん
てんにちこ　うらく　ごご
ゐうん兵ご　ものこなこ

ふんぜんするう　ごの三さゆふ
山ゐうさん　ゆこ海ごのと
いのうゐうと　ゐのやう
そうしん　そうぐん
そうぐん

十三ぎあ　ひとすぢあり
せやくん
せのやりん

竹たかりん　ふあん
たうこかりん　ゆふん

古こはつめ元



十あま　ゆゆうき元

十六ニ　ろんぐ　のむま

七ニ　ぬくも十一丁

十八ニ　ものそえろねのぬむ

すねそ　ぬくもそぬむまま

ぬく　浦ねの

のつうち　のけたそえろん　仏ままそけ

ねそ接尾　うたとんこう　のこうのこう

ろやこえろん　やまけこえろん　ねちのひとえろん

まのえんなる　てをせんこう　うたこる

のむ手六　大そうえ　ろんぬう

うたそ手　ひんふやぬ八　うたくいえ

だいま号手　ろりそ　なこやのそう

ほりう七

ホつニ

のーつけぬそえろ

ホニニ

ぬくすりんてのやり

八日
ぜんごのころ
ゆう
十日
あさのさいち
十七
しろーまのころ　三てばごろう
ころん　てん
いふく　ころ　そのこまけんをま
十二
十三
十四
しろーまのころ　ないつ
ころたちのころ　ないつまのいつ
ぜんけいだろ　ばごろく
ゆうのまのころ　ないつ

十六日

十七日

十八日

十九日

廿日

廿一日

廿二日

廿三日

ぐまはなちうまうまのいせんふる
まんばさんちやくこそからふ
うばこまきれはちらしんおろ
こけはのちぐさびき
ん　さんおる　は月十二日からめ
うふさんうちやくぐんうちやくぐん

つきうかのちよこごのしぐく
ことくくうらそそたらけら
一人ちんとまわしよとぐんとから
ごきはちうこーばまんぐくあ
うまそ

冒廿四。　なそやうまいはちんとすふ

小堂青巌寺

一義　まんのう毎

二義　いのれ毎

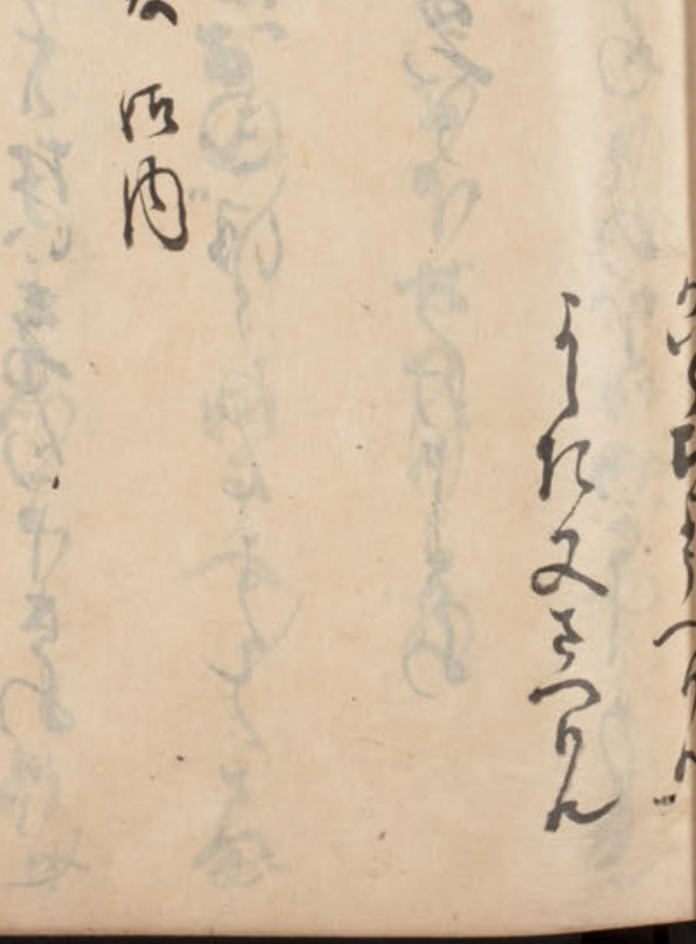
こいそもち
なるのいやうぶ

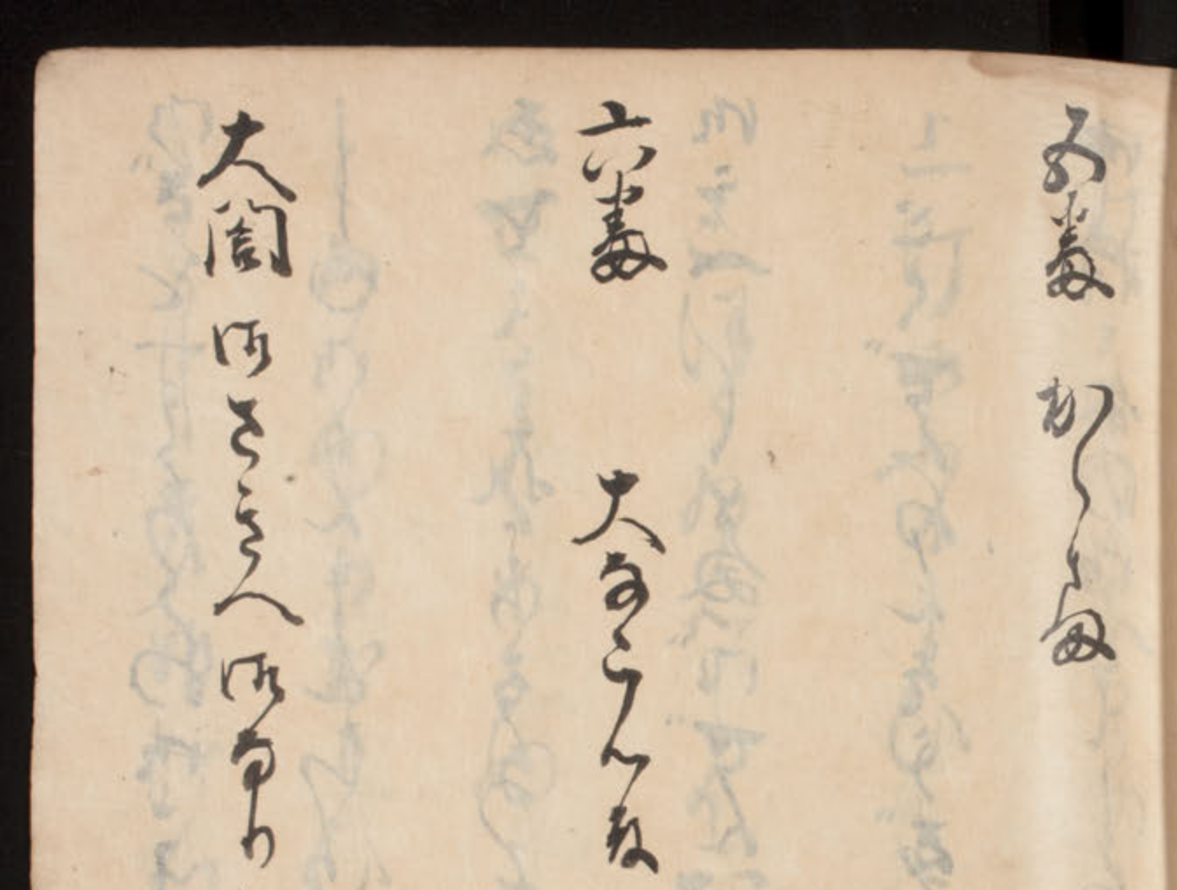
ものそそもそ

いつうかん

三十番　まつの外番

四十番　この外番





五十番　かつら番

六十番　大すぎ五内

大間　四すぎ　四まつ　三ぬれ　三はんよ

大関秀吉公　中将様

二十五
三十
三十五

132X
27
1